

長崎 平和を問う

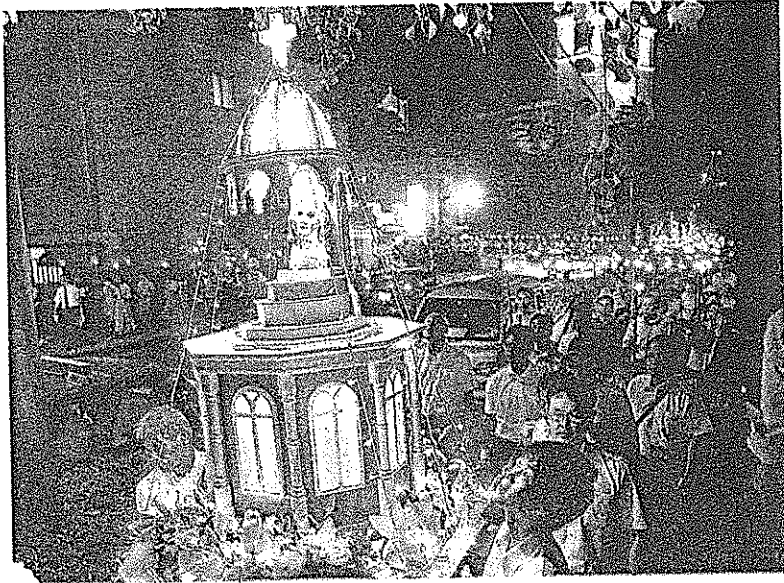
市長、安保法案に懸念

被爆70年の祈念式典

2/10 朝日

長崎に原爆が投下されてから70年を迎えた9日、犠牲者を追悼し、核兵器廃絶の願いを新たにする平和祈念式典が同市で開かれた。田上富久市長は平和宣言で、参院で審議中の安全保障関連法案について「憲法の平和の理念が描かれているのではないかと、この不安と懸念が広がっている」と指摘。慎重な審議をするよう政府と国会に求めた。

デジタル版にスライドショー



3面||安保、被爆者の懸念
6面||ローマ法王廃絶訴え
26面||市長の平和宣言全文
27面||長崎の声未来へ継ぐ

核と

を考える

被爆70年

市によると、式典には約1万6800人が参列。各国大使らも過去最多の75カ国から出席した。田上市長は平和宣言で、戦争の記憶が「急速に失われつつある」と危機感を示し、「悲惨な戦争の記憶を忘れてはならない」と指摘した。

また、次世代に語り継ぐ必要性を強調し、若い世代に「平和への思いをしつかり受け止めて」と呼びかけた。政府には、核抑止力に頼らない安全保障の検討を求め、「北東アジア非核兵

非核三原則に言及 首相

安倍晋三首相は9日、長崎市で平和祈念式典に出席し、「非核三原則を堅持しつつ、『核兵器のない世界』の実現に向けて、国際社会の核軍縮の取り組みを主導していく」とあいさつした。広島市での平和祈念式典では「非核三原則」に触れなかったが、被爆者や野党から批判を受け、一転して盛り込んだ。

聖母も祈る

長崎市で9日夜、平和を祈りたいまつ行列があった。カトリック信者らが爆心地近くにある浦上天主堂から平和公園まで約1.5キロを歩いた。原爆で傷ついた「被爆マリア像」も参加。マリア像は爆心地から約500メートルの場所で見つかった。ほおや髪の毛は黒く焦げたままだ。(池田良撮影)